



Title	ベンダー・ゲシュタルトテストの老年者知的機能検査用採点法の作成
Author(s)	近藤, 秀樹
Citation	大阪大学, 1993, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/38674
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 ＜a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed >大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名 ^{こん}近 ^{どう}藤 ^{ひで}秀 ^き樹

博士の専攻分野の名称 博 士 (医 学)

学 位 記 番 号 第 1 0 8 4 7 号

学 位 授 与 年 月 日 平 成 5 年 6 月 2 日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第4条第2項該当

学 位 論 文 名 ベンダー・ゲシュタルトテストの老年者知的機能検査用採点法の作成

論 文 審 査 委 員 (主査)
教 授 西 村 健

(副査)
教 授 白 石 純 三 教 授 柳 原 武 彦

論 文 内 容 の 要 旨

【目 的】

ベンダー・ゲシュタルトテスト（以下 BGT）は単純な 9 個の平面図形を、時間制限なしで順に模写する簡単な検査で、脳疾患による成績低下が広く認められており、老年者の知的機能検査としても有用である。しかし、これまでの採点法では痴呆患者で採点不能となる頻度が非常に高いため、その有用性が著しく限定されていた。本研究では老年者の知的機能の判定に適する BGT の採点法を作成することを目的として一連の検討を行った。

【方法ならびに成績】

1. 従来の採点法による BGT 成績の痴呆患者群と健常老年者群における比較

痴呆老年者群25症例、非痴呆老年者群28症例の BGT をパスカル・サッテル法（PS 法）とコピッツ法（Ko 法）で採点・比較したところ、両群の成績に差があり両者の弁別に有用と考えられる項目は、PS 法の105項目中32項目と Ko 法の30項目中15項目であった。

2. BGT の老年者知的機能検査用採点法の作成

本研究では従来の誤りを採点する方法をとらず、正しく模写された部分を採点する方式を採用し、痴呆群と非痴呆群の弁別に有用な項目をもとに、老年者知的機能検査の BGT 採点法を作成した。採点では、回転の異常、形の異常（図形の付加・欠落と図形相互の位置関係・大きさの釣り合いの照合を含む）および数の異常（ボツ点、列および波の数）を点検する。各項目の正答に 1 点を与え、満点は50点となる。

新採点法による痴呆群と非痴呆群における BGT 成績は、全項目で非痴呆群の正答率が痴呆群より良好で、平均得点は 46.7 ± 3.1 点と 19.1 ± 14.2 点で、両群間に有意差がみられた。

3. 老年痴呆群と脳血管性痴呆群における BGT と痴呆のスクリーニングテストの成績

同時期に BGT と西村式知的機能検査（以下 N 式検査）あるいは長谷川式知的機能診査スケール（以下 H 式検査）を受けた20症例のアルツハイマー型老年痴呆（以下老年痴呆）群と30症例の脳血管痴呆群で、新採点法による BGT と N 式、H 式の成績を比較検討した。

老年痴呆群と脳血管性痴呆群における、BGT、H 式検査、N 式検査および N 式検査の立方体模写のすべての平均点において、両群間に有意差はみられなかった。BGT の項目別成績では、〔変形〕で有意差、〔付加・欠如〕で有意傾向の差があり、共に老年痴呆群が脳血管性痴呆群より好成績であった。〔回転〕〔大きさの釣り合い〕および〔数の異常〕においても、有意差はなかったが、正答率では老年痴呆群が脳血管性痴呆群より良好だった。〔位置関係〕においてのみ両群の正答率は同じであった。

BGT 得点と N 式検査得点との間の有意な相関は老年痴呆群においてのみ認められ、脳血管性痴呆群においては認められなかった。

BGT 成績と H 式検査得点との間にはどの群においても相関が認められなかった。

BGT 成績と N 式検査の立方体模写得点との間には、老年痴呆群においても脳血管性痴呆群においても、有意な相関が認められた。BGT は平面図形の模写で、N 式検査の立方体模写と同じ課題ではないが、共に図形模写課題であるために相関がみられたのであろう。

【総 括】

- 1) 痴呆老年者群と非痴呆老年者群におけるベンダー・ゲシュタルトテスト (BGT) の成績を比較・検討することにより、採点不能となる欠点をなくした BGT の老年者知的機能検査用採点法を作成した。
- 2) 新しい BGT 採点法を用いて、アルツハイマー型老年痴呆群 (老年痴呆群) と脳血管性痴呆群の BGT を採点して両群の成績を比較し、痴呆のスクリーニングテストの成績と BGT 成績との相関についても検討した。
- 3) BGT の採点項目である〔変形〕と〔付加・欠如〕において、老年痴呆群の成績が脳血管性痴呆群の成績より良好であった。
- 4) 空間見当識の障害されやすい老年痴呆群では、BGT においても位置関係に関する成績が特に不良であった。
- 5) 脳の障害の様式が類似していると考えられるアルツハイマー型老年痴呆群においては BGT と N 式検査の成績に有意な相関が認められたが、病変部位が症例ごとに異なる脳血管性痴呆群においては、これらの成績の間に有意な相関がみられなかった。
- 6) 主に記憶の検査で構成されている H 式検査と BGT の成績に相関はみられなかった。

論文審査の結果の要旨

ベンダー・ゲシュタルトテスト (以下 BGT) は簡便且つ有用で広く使用されているが、知的検査用の適当な採点法がないため、その有用性が著しく限定されていた。本研究では、従来の採点法の欠点や、痴呆老年群と非痴呆老年者群における BGT の成績などを検討し、老年者の知的機能の判定に適する BGT の採点法を作成した。

本採点法を用いた痴呆患者群の BGT 得点と非痴呆対象群の得点との間には有意な差があった。しかし、BGT 得点と従来用いられている痴呆スクリーニングテストとの間の相関は高くなかった。本研究により従来の検査で得られるのとは異なる知的障害の一側面をとらえることが可能となった点で価値があり、学位に値すると思う。